

JSPE 教育部会主催 FY2026 第 2 回技術施設見学会(JAXA 調布航空宇宙センター)報告書

2026 年 7 月 6 日

- ・見学先: JAXA 調布航空宇宙センター
- ・場所: 東京都調布市深大寺東町 7-44-1
- ・開催者: JAXA 調布航空宇宙センター見学担当
- ・見学日: 令和 8 年(2026 年)6 月 12 日(金) 15:00~16:00
- ・申込者: 7 名
- ・参加者: 7 名(正会員 7)
- ・参加費: 無料
- ・CPD: 1.0PDH
- ・懇親会: インド料理 Sital 三鷹店

JAXA 調布航空宇宙センターの正式名称は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構調布航空宇宙センターとなります。

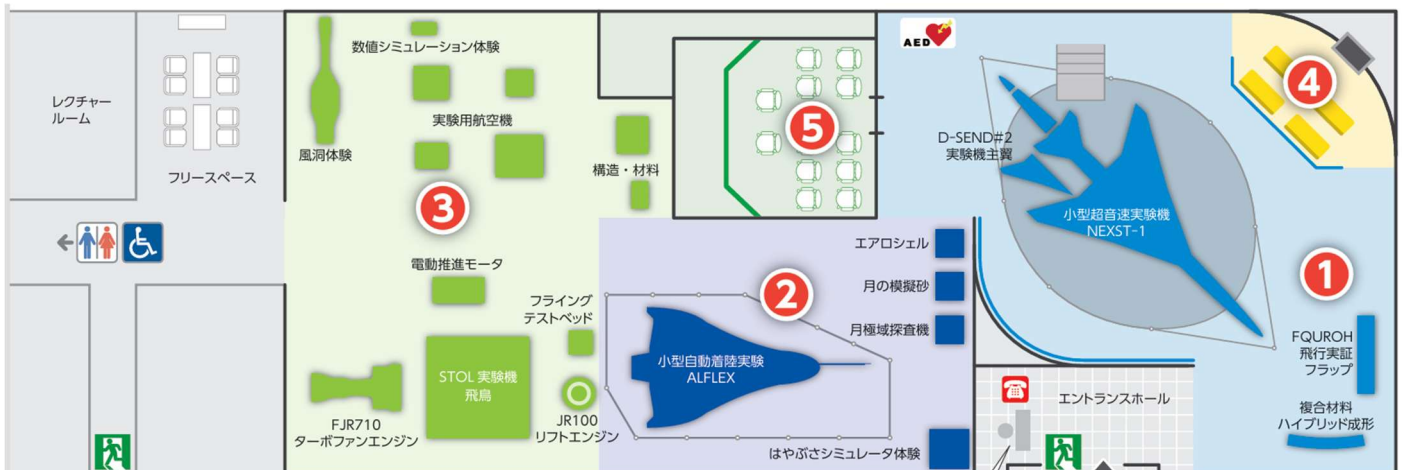


案内位置図



JAXA 調布航空宇宙センター正門前

今回、そのセンター展示室(Chofu Aerospace Center Exhibit Hall)の、ガイド付き団体ツアーに申し込みましたので、平日金曜日の午後となりましたが JSPE の興味・好奇心溢れる会員 7 名で見学してきました。



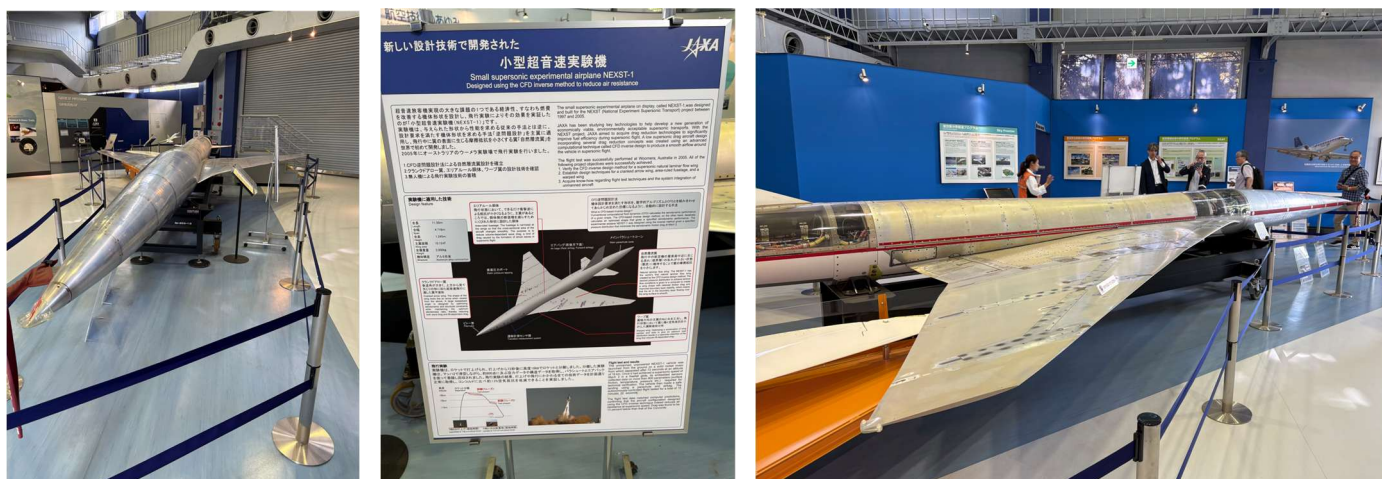
① 航空ゾーン

将来の空に必要な航空技術の研究を紹介しています。

スペース・ミッション・シミュレータとYS-11 コックピット展示の見学を

ここでは現在取り組んでいる研究活動や、これまでに行ってきた研究を分かりやすく紹介しています。

① 航空ゾーン(小型超音速実験機 NEXST-1)

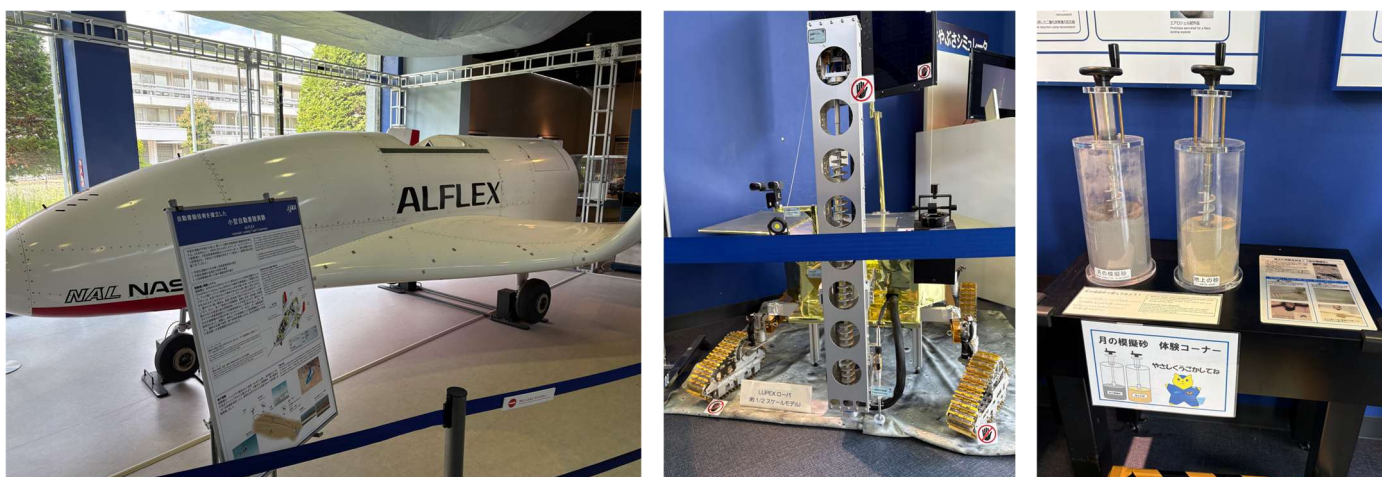


超音速旅客機実現の大きな課題の1つである経済性すなわち燃費を改善する機体形状を設計し、飛行実験によりその効果を実証したのが小型超音速実験機(NEXST-1)です。



実験機は 2005 年にオーストラリアのウーメラ実験場で飛行実験が行われました。ロケットで打上げられ、高度 18km でロケットと分離、実験機はマッハ 2 で滑空しながら空力データや構造データを取得して、パラシュートとエアバッグを使って着陸、回収されました。

② 宇宙ゾーン(宇宙活動に向けた研究開発を紹介しています)



小型自動着陸実験 ALFLEX

月極域探査機

月の模型砂

ALFLEX は宇宙往環機が宇宙から地上に戻ってくる際の自動着陸の基盤技術を確認することを目的として、1996 年にオーストラリアのウーメラ実験場で行われました。飛行実験は合計 13 回実施され、実験計画は成功裏に完了しました。

月の模型砂のコーナーでは、地上の砂と月の模型砂を小さなドリルで掘削してみて、その感触の違いを感じ取ることができました。

③ 基盤技術ゾーン(航空宇宙に関する研究開発に必要な基盤技術と試験設備を紹介しています)



実験用航空機



ガイド担当者による説明



FJR710 ターボエンジン



STOL 実験機 飛鳥

④ ビデオシアター(映像でさまざまな研究活動を見ることができます)

今回の見学では上映はありませんでした。展示見学優先ということになります。

⑤ スペースミッションシミュレーター(未来のスペースプレーンで模擬操縦体験をすることができます)



JSPE 参加者の精鋭2名がテストパイロットとなり、無事に離着陸を成功させました。失敗もあるそうです。

⑥ YS-11 コックピット展示(屋外展示)



検査機機体のコックピット



操縦室入口(京都飛行神社のお守りも)



映画で見るような機器類

2006年末に退役するまで40年間の、開発当時の経年変化を、JAXA は試験で調査し、構造疲労データなどを蓄積しました。将来の国産旅客機の安全設計に役立て、旅客機技術を発展させます。

⑦ 集合写真および懇親会写真



JAXA 調布航研展示室エントランスホールにて



懇親会場インド料理 Sital 三鷹店にて

約1時間の見学会でしたが、まさに未知との遭遇で参加者の皆さんも充実した様子でした。なお当日は、2025年に打上げられたJAXAの、H3ロケットの再挑戦の日でもありましたが、軌道投入まで成功できたことから、見学実施の前には調布航研のスタッフも大歓声とのことで、心なしかガイド担当者さんも上機嫌の様子でした。

文責：山村 佳輝
(JSPE 教育部会)